令和７（２０２５）年度

事業計画書

学校法人 東京聖徳学園

SEITOKU

【学校法人東京聖徳学園が設置する学校等】

学校種	学校名・課程	通学課程		通信課程	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
大学院	聖徳大学大学院 専門職学位課程（教職大学院）	15	30	―	―
	聖徳大学大学院 博士前期課程・修士課程	120	240	50	100
	聖徳大学大学院 博士後期課程	24	72	5	15
大学	聖徳大学	883	3,740	415	4,350
短期大学	聖徳大学短期大学部	149	379	100	500
	聖徳大学短期大学部 専攻科	5	5	―	―
専門学校	聖徳大学幼児教育専門学校	90	265	―	―
高等学校	光英 VERITAS 高等学校	459	1,377	―	―
	聖徳大学附属取手聖徳女子高等学校	70	210	―	―
中学校	光英 VERITAS 中学校	160	480	―	―
	聖徳大学附属取手聖徳女子中学校	休校中		―	―
小学校	聖徳大学附属小学校	105	630	―	―
幼稚園	聖徳大学附属幼稚園	120	400	―	―
	聖徳大学附属第二幼稚園	120	400	―	―
	聖徳大学附属成田幼稚園	60	270	―	―
	聖徳大学附属浦安幼稚園	90	300	―	―
	聖徳大学三田幼稚園	105	315	―	―
	聖徳大学八王子幼稚園	90	320	―	―
	聖徳大学多摩幼稚園	90	400	―	―
合計		2,755	9,833	570	4,965

１．法人（学園全体）

【管理運営】

（１）学園の次期中期計画の策定

学園の現中期計画の実施状況を振り返り、課題点やその対策等を把握し、次期中期計画を策定します。

（２）学園の中期計画及び各部門の年度計画の着実な実行

常任理事会の下に設置した「総合改革推進プロジェクトチーム」が中心となって学園全体の中期計画及び各部門の年度計画の目標を組織的に進捗管理し、学園のビジョン達成に向けて改革を推進していきます。

（３）内部統制システムの運用

内部統制システム整備の基本方針に基づいて、経営に関する管理体制、リスク管理に関する管理体制、コンプライアンスに関する管理体制、監査環境を整備、運用していきます。

（４）短大 60 周年・大学 35 周年記念行事の開催

聖徳大学短期大学部創立 60 周年・聖徳大学創立 35 周年を記念して、令和７年９月 20 日（土）に聖徳大学松戸キャンパスにおいて記念行事を開催いたします。

（５）募金の募集

次の募金の募集を行い、本学園の財政基盤を強化し、本学園における教育研究活動を支援していきます。

・聖徳教育学術振興募金
・聖徳大学香和会 50 周年記念奨学基金

（６）学園施設の有効活用

① 「信州佐久 春日温泉 自然体感リゾート かすがの森」の活用

「信州佐久 春日温泉 自然体感リゾート かすがの森」を校外学習の場として活用し、施設の有効活用と維持管理に努めます。

② 遊休施設の活用

現状、使用（活用）していない学園施設について、今後の事業展開を見据えて、活用方法を検討します。

（７）経費の削減

経費削減を推進するために、令和６年度に構築した新たな予算ガバナンス体制の運用により、当該部門と予算編成の精度を高め、予算執行管理との紐付けをより強化していきます。

（８）エネルギー使用量の削減

省エネルギー推進委員会が中心となって、学園全ての施設において徹底的に省エネルギーを推進し、主要エネルギーである電気使用量を削減し、SDGs の達成に貢献するとともに、経費削減に取り組みます。

（９）ガバナンス・コードの活用

令和７年４月１日施行の改正私立学校法に対応した「日本私立短期大学協会　私立大学・短期大学版　ガバナンス・コード【第２版】」を活用し、経営の安定性・継続性の確保、自律的なガバナンス体制の確立、教学ガバナンスの充実、及び情報の公開に努めていきます。

２．聖徳大学・聖徳大学短期大学部

【教育研究】

《教育の質の向上》

（１）「保育の聖徳」のブランド価値の再構築と再訴求・浸透

学園創立以来、伝統・実績を築き上げてきた、本学の支柱とも言える幼児教育・幼児教育者育成における聖徳の強みについて検討する取り組みを通じて、「保育の聖徳」のブランド価値の再構築と再訴求・浸透を図ります。

（２）「Business Field Linkage」プログラムの拡充・強化

令和５年度より全学共通の副専攻プログラムとして本格始動した「Business Field Linkage」の学びを、さらに拡充・強化していきます。具体的な取り組み内容は次のとおりです。

① 情報社会を生き抜き、常に自己実現のためにチャレンジする精神とその方法論を学ぶために、以下の３科目を新設します。
「WEBテクノロジーの基礎と応用」、「AI時代を生き抜くためのメディアリテラシー論」、「起業（事業創造）に向けた実践論」

② Business Field Linkageの学びを統合して実社会に活かす「Business Field Linkage近未来価値創造ゼミ」を新設します。学科のゼミとは別の本プログラム独自の活動型ゼミで、Business Field Linkage の広報及び調査・研究活動を通して、新しい価値を創造する力を育成します。

③ １年生の創造力を開発する「Business Field Linkage自由研究ゼミ」を新設します。このゼミでは、「地域社会の街づくり・人づくり」をテーマに社会的課題について調査・分析し、オープンに意見交換することにより、「Business Field Linkage 原論」で学んだ知性をさらに高めていきます。

（３）教育学部児童学科の教育改革

① プログラム選択型専門教育の導入

１年次の授業科目「チャイルドスタディ入門」（ICS 科目）で興味関心のある分野を見つけ、２年次から、５つのコース、15 個のプログラム、40 以上のゼミなどを組み合わせて自分だけの学びをカスタマイズできる専門教育プログラムを提供します。

② 医療保育コースの開設

これまでの４つのコースに加えて、令和７年度から医療保育コースを開設します。子どもの健康･病気予防に関する専門的知識をベースに、病児保育や病後児保育、病棟保育、通常保育の中で行う医療的ケア児に対応できる保育者を育成します。

（４）教学マネジメントの推進による学習者目線の改善・改革（内部質保証）

本学独自の自己点検・評価基準に基づく各学科の点検・評価により、意識調査等の分析結果や学生からのヒアリング結果から学習者のニーズや期待を丁寧に汲み取り、そこから得られる課題に正面から向き合い、学習者目線の改善・改革を推進していきます。

（５）学習成果の可視化と明確化に向けた取り組み

学習成果の可視化と体系化は着実に進んでいます。教育課程に掲載している「学習成果の獲得状況を測る手法と時期」を効果的に活用、改善することで①学生に学習成果の獲得を可視化して理解・認識させ、②自ら語ることで（言語化）自己肯定感・効力感を高め、③客観的数値とともに、学習成果獲得の情報公開を推進します。

（６）国立ハノイ教育大学との連携事業の計画

令和５年度に学術交流及び連携に関する協定を締結した、ベトナム・ハノイ市の国立ハノイ教育大学（Hanoi National University of Education）と協働し、幼児教育分野のカリキュラム開発や、セミナーの実施を計画していきます。この活動により両大学、引いては両国の教育・研究の進歩を促進します。

（７）学生支援の質の向上

在学生からの意見をふまえた改善活動及び改善結果のフィードバックを推進し、学生支援の質を向上させ、学生満足度の向上に取り組みます。

（８）教育・研究の向上

各教員の研究成果である著書、学術論文等の研究業績等の発表を推奨し、教育・研究の充実を図り、より質の高い教育の実現と競争的研究資金等の獲得を目指します。

（９）キャリア支援の充実

４年連続全国女子大学１位の実就職率の維持・向上

個々の学生の状況に応じたきめ細かな就職指導を行うための個別プログラムを整備し、早期の就職活動への取り組みを推進するとともに、既存のプログラムについてもレベルアップを図り、キャリア支援を更に充実させ、実就職率 97.4%と４年連続で全国女子大学１位となった同水準以上の実績を目指します。

（１０）中途退学者予防策の推進

各種アンケート調査や学生への直接のヒアリング、アセスメント結果、自己点検・評価等の結果に基づき、学科の教員が一丸となった早期対応の徹底、事務局学生部各部門による横断的な退学防止に向けた取り組みを推進し、初年次退学率３％、卒業までの退学率８％以内の目標を継続的に達成します。

【地域・社会貢献】

（１）地域の活性化と人材の養成

① 高校生の体験発表会の開催

本学の社会貢献活動の一環として行われている、高校生が自身の体験や経験について自由に発表を行う「高校生の体験発表会」を継続的に実施し、学校や学科の垣根を超えた交流を通して、高校生自身の学びの深化や新たな発見、多様性への理解を促します。

② 高等学校、地方自治体、企業等との連携

高等学校、地方自治体、企業等との連携により、地域貢献活動を推進し、地域コミュニティづくりや地域社会の発展を目指します。

（２）生涯学習による社会貢献・地域振興

近隣地域の自治体・企業との連携や学内の知的財産の活用などによる講座の企画に取り組み、地域社会の生涯学習への期待・要望に応える社会貢献及び自治体・企業との信頼関係・連携協力体制構築による地域振興をより一層推進します。

（３）子育て支援

地域の親子交流の場として、「おやこ DE 広場　にこにこキッズ」や「おやこで“ゆるりん”」を運営し、地域の子育てを支援します。

（４）「知」の還元

① 教育委員会との連携

教育委員会と連携し、人事交流、協働による教材開発や学校課題の改善、教育調査の分析の支援などに取り組みます。

② 所蔵する貴重資料の公開

聖徳博物館、利根山光人記念ギャラリー等において、展覧会を開催し、聖徳大学が所蔵する貴重資料を公開します。

③ 講演会、シンポジウム等の開催

研究所等の主催による講演会、シンポジウム等を開催し、広く社会に最新の情報や研究成果を還元していきます。

【管理運営】

《学生募集》

（１）オープンキャンパスへの来場促進

６月～８月開催のオープンキャンパスの来場者数を最大化するという目的に向け、広報予算を集中的に投資するとともに、ダイレクトメールの種別や対象学科、送付時期の見直しを行い、費用対効果も踏まえたオープンキャンパスへの来場促進を行っていきます。

（２）オープンキャンパスの保護者向けプログラムの充実

これまでオープンキャンパスのプログラムは受験生向けの内容が中心でしたが、保護者のニーズに応えるとともに、本学の教育的価値を効果的に伝えるため、保護者向けプログラムも充実させていきます。

《基盤整備》

（３）校舎耐震化率の向上

将来発生が予想されている首都直下型地震や南海トラフ地震等の災害から、学生・教職員等の生命や財産を守るため、耐震化完了計画に基づき、全学を挙げて耐震化率の向上に努めてまいります。

（耐震化完了計画）

令和６年度	令和７年度	令和８年度
89.4%	93.6%	100%

（４）高等教育の修学支援新制度への対応

令和２年度から施行された「大学等における修学の支援に関する法律」に基づく、「高等教育の修学支援新制度」に相当する支援を行います。

【環境配慮】

（１）エネルギー使用量の削減

学園全体で推進しているエネルギー使用量の削減に向けた取り組みとして、校舎内の照明の LED 化をさらに進めます。電気使用量を削減し、SDGs の達成に貢献するとともに、経費削減を図ります。

３．聖徳大学幼児教育専門学校

【教育研究】

《教育の質の向上》

（１）保育実践プログラム・保育探究の実施

保育実践プログラムは、実習だけでは得られない、子どもとの関わりで学びを深める本校プログラムであり、併設の聖徳大学三田幼稚園と教育連携を取り、学校の授業で理論を学び目標や課題をもって幼稚園現場に行き、実際に幼児と関わり実践します。そこで新たな課題を発見し、それを授業に持ち帰り、解決策を考え合うという理論と実践を往還しながら、学生が意欲的に学び、幼児理解を深め、実感を伴った学びの定着を図ります。これを通して、子どもたちに良質な保育を提供できる実践力をもった保育者を育成していきます。令和 5 年度は 1 年生のみでしたが，令和 6 年度より 2 年生も入園時の幼児との関わりを通して、学びを深めることができるようになっています。令和 7 年度からは、「保育探究」として授業科目に位置づけ、さらなる充実に取り組みます。

（２）学生の学びの可視化促進

学生の登下校、各授業の出席確認をスマホアプリ MyiD（マイディ）を使用して登録するシステムを導入しています。また、Google Classroom を導入して、学生への連絡だけでなく、授業の中でも、教員と学生の双方向のやり取りや学生同士の意見を可視化しています。さらに学生が自らの成長を把握するものとして、「実習自己評価」を作り実習における自己評価ルーブリックを使用し、実習ごとに記入することで 2 年間ないし 3 年間で保育者を目指す自身の成長を可視化できるようにしていきます。

（３）授業アンケート中間期調査の改善

期末調査の他に中間期調査を、Microsoft Forms を使用してオンラインで行うことで回収率を上げ、質問項目に縛られない、より自由かつ率直な学生の回答を集約し、結果の詳細を教員会で共有し、兼任教員にも結果を報告してきました。引き続き、兼任教員にも結果を共有し、改善できることは即座に改善し、各学期残りの授業に反映させやすい方法を定着させていきます。

（４）教育の質を高める研修の活性化

本校ＦＤ方式（各教員によるＦＤ計画書提出、授業改善ポイントに合わせた相互参観、学期末のＦＤ報告会開催）を継続しながら、授業アンケート中間期・期末調査の結果を計画および報告に反映させ、報告会において活発な教員間の意見交換を行います。

内部研修では、研修テーマを教員から広く募り、学生および教員のニーズに合わせた研修会を実施します。Google Classroom の効果的な活用法、また様々な事情を抱える学生への対応などについて、教員間でさらに情報共有をしていきます。

教員の外部研修参加を促進し、教員会で定期的に報告を行うことにより、最新の知見を共有し共通の発見等を促すことで、授業および学生対応に活用できるよう取り組みます。

（５）会議の効率化

事前に会議資料を Microsoft Teams に置くなど、オンラインを活用しての迅速な情報共有方法を導入することにより、各部会の検討事項の明確化、部会間の連携内容の早期把握や重複の点検等のさらなる効率化を図ります。教員会の資料等印刷をせず、用紙の節約に取り組みます。

《就職の向上》

（６）就職サポート体制の強化

従来の就職ガイダンス、聖徳フレッシュアップデイ（ＳＦＤ）での卒業生講演、「聖徳教育Ⅲ」での自己分析、クラス毎の個別面談など各所で行われていた就職支援活動を総括的にまとめ、さらには学外研修および保育実践プログラム（保育探究）以外の様々な行事をキャリア教育の一環として位置づけを明確化し、全体の計画および課程を把握しやすい「保育キャリアデザイン」として再編成します。

公務員試験対策では外部委託講座、教員による論文・面接・実技の指導など、個別対応のさらなる充実化を図ります。

求人情報をオンラインで検索できるＥＮＭＡＰを活用し、就職先からの最新情報や先輩たちの就活経験をも集約することにより、自主的で活発な就職活動に役立てます。

学生が早期に就職後の自分の姿を具体的に思い描き、希望する就職先や公務員試験合格への期待感を抱けるよう支援を強化していきます。

【地域・社会貢献】

（１）行政、地域との関係強化

保育・幼児教育者の養成校として、中学生・高校生の上級学校訪問時に保育・幼児教育の重要性を説明し、理解してもらう機会を積極的に提供していきます。

高等学校へのガイダンスや体験授業など積極的に参加することで、幼児教育者の養成校としての支援を行っていきます。

令和７年度の新たな試みとして港区立三田図書館と連携し、学生が社会教育への理解を深める機会を設けるとともに、日頃の学習や実習準備、グループ研究における学生の図書館利用や授業で製作をした壁面構成の掲示などより一層関係強化を促していきます。

【管理運営】

《学生募集》

（１）競合校との差別化を明示できる学校へ

保育・幼児教育に特化した専門学校として、卒業と同時に幼稚園教諭免許状・保育士資格が取得可能な指定認可校であること、圧倒的な求人件数（約 5,000 件）でより質の高い就職が実現する学校であること、聖徳大学・短大への編入もできる多様な選択肢をもった養成校であることを広く周知します。

入学者確保に向けて、ステークホルダー（受験対象者）の共感を得られるよう、競合校との明確な差別化を図ります。本校の教育方針を高校生にもわかりやすく提示し、聖徳

大学三田幼稚園との教育連携による本校独自の学生満足度の高い「保育実践プログラム（保育探究）」では、早期から連携園の子ども達と関わりをもち、実践力が確実に高められるようにしていきます。2つの免許と資格が取れる保育総合コース、保育士の資格取得のみで卒業できる保育士コース、仕事や家庭と両立しながら学べるように長期履修制度（3年間）を活用した保育アフタヌーンコースの設置や選択科目の開講など刷新された本校の姿をアピールすることに注力します。高校生から保育者を目指す学生を支援するために、保育技術検定で取得した「級」によって学費を減免する学費減免制度を新設して、新たな納付金額により、学費が高いという従来の印象を払拭します。

本校の大きな強みである新校舎を全面に出し、Ｗｅｂサイトや広告媒体のデザインをリニューアルし、学生スタッフが主体となって行うオープンキャンパスなどを実施し早期来校を促します。高校訪問、進路ガイダンス、中高支援、ＳＮＳ情報発信などあらゆる機会を活かし本校での新しい学びを発信していきます。

《基盤整備》

（２）業務削減にむけた効率化

業務を改めて洗い出し、重複作業の削除、効率化を意識できるよう転換を図り業務削減に努めます。教職員間ではMicrosoft Teams、学生とはGoogle Classroomを導入することにより、時間短縮、ペーパーレス、教職員間のファイルの共有による作業効率化を図ります。

【環境配慮】

（１）環境を意識した教育・危機管理ができる人材の育成

年間３回（１回は聖徳大学三田幼稚園合同）の避難訓練を通し、防災意識を深めていきます。危機管理日を設け、上級救命講習・防犯教室・消費者問題講習・租税教室等を実施することで、幼児教育者・保育者として卒業後も活かせるよう支援していきます。

環境配慮について学期始めに説明し、日々使用している教室の清掃や港区で求められるゴミ分別等を通して環境意識の向上に努めます。

４．光英 VERITAS 中学校・高等学校

【教育研究】

《教育の質の向上》

（１）「探究的な学び」を柱にした学習による 21 世紀型スキルを身につけた生徒の育成

学びの核として取り組む「探究科」（全学年で同時間帯に週 1 時間実施）と全教科で展開する「探究型授業」によって「答えを求める学びから問いを持つ学びへ」と学びの質の転換をさらに加速させ、生徒が自ら学び新しい知識を創造する 21 世紀型スキルを獲得できるようにします。学外の企業や教育機関と連携することにより、学校内だけではできない質の高い学びを実現します。

（２）英語・国際理解教育の充実による多様な価値観と豊かな表現力を持つ生徒の育成

小笠原流礼法の学びによる日本文化の理解を基盤として、海外の教育機関との連携を広げ国際理解教育を実践します。併せて、英語教育における総合的な言語運用能力の獲得によって、グローバルな視野と多様な価値観を持ち自分の考えを自分の言葉で自分らしく豊かに表現できる生徒を育成します。ユネスコスクール（2025 年 2 月認定）としてその理念に基づき、国内外の教育機関と文化・科学等の情報や体験を共有していきます。

（３）理数教育の充実による理数の知識・技能を活用できる未来の科学者の育成

実験データ等を活用して仮説を検証し研究論文を執筆できる「未来の科学者」を育成していきます。そのために課題解決のプロセスを重視した探究型の理数学習に取り組み、知識・技能を着実に定着させるとともに思考力・判断力・表現力を養成します。そのために、授業内での年間３０回以上の理科実験や外部コンテスト参加を視野に入れた理数プロジェクト学習等を実施し、理論を理解した上で実践的な活用力を高めていきます。

（４）ＩＣＴ活用によるアクティブ・ラーニングでの効果的・効率的な学びの促進

全校生徒所有のタブレット端末（iPad）を始めとする ICT 機器を効果的・効率的に学習に取り入れ、21 世紀型スキルの獲得をより促進していきます。その活用では、ＡＩを組み込んだアプリ等により、一人ひとりに最適な学びを提供するとともに、オンラインで学校外の人たちとつながる協働学習により多様性を醸成しコミュニケーションスキル（対話力）を高めます。「ひとづくり」を大切にしたテクノロジー利用を心がけ、「小笠原流礼法」で培った他者への思いやりの心を持ちながら、ICT 活用なしでは実現できない創造的な表現力で発表活動する機会を積極的に創出していきます。

《進学の向上》

（５）探究を生かした質の高い進路実現

教育の核として取り組む「探究的な学び」で獲得される主体性やチャレンジ力を生かし、先を見据え自らより高みを目指し進路実現のため継続的に努力できる生徒を育成していきます。進路マップや進路ルーブリックによる目標の可視化によって生徒自身が見通しを立てて進路実現のために取り組みやすくし、デジタルポートフォリオ（活動成果等を蓄積する電子ファイル）に諸活動の成果を蓄積し「ふりかえり活動」を行うことで自己

省察力を高め、大学で学ぶ意欲を進学の動機とする良質な進路実現につなげていきます。

（６）大学入試に対応する総合的な取り組み

入試で求められる学力の３要素獲得のため「探究的な学び」を軸とした教育計画を整備していくとともに、多様な入試に対応する進路指導についての継続的な研究と授業の質向上に資する大学入試問題分析を含む教員研修の強化を図っていきます。

放課後に開設する自習室（学生チューターによる学習・進路指導サポートのシステム）および校内予備校（予備校からの派遣講師授業）と教員が実施する補講・補習、校内で実施する全国模試の連動性を強化し、主体的な学習態度の育成と具体的な成績伸長を図り、生徒が確かな学力で高みを目指し良質な進路実現ができるよう総合的に取り組みます。

【地域・社会貢献】

（１）地域における教育的価値の向上

教育活動で地域に貢献するとともに光英 VERITAS 中高の教育的価値を高めていきます。

① 光英 VERITAS 中高主催のコンテスト開催

地域の中学生対象の英語コンテスト（KOEI VERITAS ENGLISH CONTEST2025）を開催（10 月予定）します。

② 光英 VERITAS 中高主催の教育研修会開催

近隣地域の小中学校教員対象の、探究、理数研究、国際理解および ICT 等をテーマにした教育研修会を開催（10 月予定）します。

（２）地域・社会貢献

光英 VERITAS 中高の教育活動および生徒活動を通し地域の活性化に貢献していきます。

① 地域行事への積極参加と地域貢献

松戸まつりのオープニングセレモニー、松戸高校生講座、北総まつり、秋山まつり等の地域行事に積極的に参加します。また全校生徒で周辺地域の環境ボランティア（清掃活動）に取り組み、地域に貢献し地域から親しまれる学校づくりをしていきます。

② 企業との連携による社会貢献

生徒会組織の各種委員会が、SDGs に貢献する企業と連携した活動を実施します。自然環境の保全、途上国に対する支援、健康と福祉の増進等に向けての取り組みを通し、倫理観と社会貢献に対する意識を高め、「人・社会・自然に貢献する自覚と実践力のある次世代リーダー」を育成する学校として、企業と連携した社会貢献活動を行います。

【管理運営】

《生徒募集》

（１）教育活動と募集活動を一体化させた募集活動の徹底

学校説明会やオープンスクール等における生徒の活動発表を年間の教育計画（学事計画）に組み込んで「生徒の成長の姿」、「生徒の学習成果」を受験希望者に対する訴求力とすることで、教育活動と募集活動を一体化させ教育の質を継続的に高めて入学生徒をより

増加させる取り組みをさらに徹底します。
受験生データの分析から入試制度（しくみ、実施方法、日程等）を再調整するとともに、重点募集地域からの目標入学生徒数を明確にして入試・募集活動に取り組み、光英VERITAS 中高の募集定員充足の徹底に努めます。

（２）ホームページ等での学習活動・学習成果の発信によるブランドイメージ作り

光英 VERITAS 中高として「探究」「英語」「理数」「iPad」「小笠原流礼法」を主とした学習活動や学習成果をホームページから発信することで、「ひとづくり」を根幹としながら「人・社会・自然に貢献する次世代リーダーを育成する学校」のイメージを構築し、学校説明会等への来校者増につなげていきます。また、本校接触者を対象に、SNS、E メール、DM を活用した定期的な情報発信を行い、学校のブランドイメージを浸透させることで学校説明会等への参加から受験・入学を促進する流れを作っていきます。

（３）教育力を訴求力とする学校説明会等の開催

光英 VERITAS 中高の教育力の高さで訴求する学校説明会等を開催していきます。

・生徒の学習活動（探究科における研究発表、英語スピーチ等）、生徒が取り組んだ学習の成果物（探究発表スライドやポスター等）等を提示し、「生徒の成長の姿」、「生徒の学習成果」を受験希望者に対する訴求力とする学校説明会を開催します。
・受験希望者に対し「探究学習体験講座」「部活体験講座」を実施します。
・生徒主体の企画（学校紹介や施設見学等）を盛り込んだ学校説明会等を実施します。

《基盤整備》

（４）野球部活動環境の整備

男子生徒募集に貢献度の高い高等学校硬式野球部の運営に必要な施設・設備（用具倉庫、スコアボード等）の整備を進めてまいります。

（５）業務改善による教育力の向上

働き方改革の推進により業務・経費の削減を適切に行うとともに、業務の選択と集中によって教育の質を向上できるよう業務環境の改善を継続します。

【環境配慮】

（１）教育課程上に位置づけた環境教育の実施

「探究科」（全校生徒が履修する科目）の学習計画の中に SDGs に関連した環境テーマの内容を組み込み、環境問題に対して地球規模の視野で考え地域視点で行動できる生徒を育成します。また、生徒会の各種委員会でも年間を通し、SDGs（環境問題分野）に関連する活動を実施し、自然環境の保全に貢献する学校づくりを目指していきます。

（２）エネルギー等の削減

教職員に対しての行動指針であり、生徒に心がけてもらいたいことを教員から伝えていくための指針である「節約のための行動指針」を作成し、エネルギー等の使用量を減少させ、CO_2排出量削減を推進します。

５．聖徳大学附属取手聖徳女子高等学校

【教育研究】

《教育の質の向上》

（１）探究する学びの実践

① 「聖徳プロジェクト」の推進

「聖徳プロジェクト」は、令和3年にスタートして以来、3年間、自走できる集団 「学び屋さん」の育成を目標に様々なプログラムに取り組んできました。この 3 年間で蓄積してきたノウハウや知見を生かして、より地域社会や聖徳大学との連携を深める等、豊富な探究の機会を提供し、生涯にわたって自ら考え、学び続けることができる、自己調整型学習の力を備えた生徒を育成します。

② 「学びの推進力」(12 の力）を意識した教育活動

本校では「生涯にわたって自ら考え、学び続けることができる生徒（学び屋さん）の育成」を目指しています。学び屋さんに必要とされる資質・能力を 12 に分類し、「学びの推進力」としました。本校では「学びの推進力」(12 の力）の定着を目標にして、聖徳プロジェクト、全ての教科・科目で意識して教育活動を実践します。令和 6 年度卒業生のアンケート結果より、3 年間の聖徳プロジェクトのプログラムがメタ認知能力の育成にもかかわることが分かりました。今後は、生徒の振り返りを活かしつつ、各教科とも連携を取りながら改善及び強化を進めます。また、外部業者による授業アンケート等の結果も活用しながら指導の改善を図ります。

③「マイプロジェクト（卒業論文)」のデータベース化

令和６年度、直近３年間分の卒業研究の発表スライドと執筆した論文をデータベース化して整理・保存しました。Teams 上に検索するアプリを作成し、在校生がいつでも簡単に卒業研究を検索・閲覧できるようになりました。また、卒業生が卒業後でも自分たちの学年の卒業研究を閲覧できるようにしました。今後も計画的にデータベース化を進めるとともに、在校生が先行研究調査等の情報収集に活用してより良い探究活動ができるよう、環境の整備と探究活動指導をより充実させていきます。

（２）高大接続の実践

聖徳大学との以下の３つの連携を通して、附属校と大学相互の理解を深め、生徒の視野を広げ、進路に対する意識や学習意欲を高める機会を提供していきます。高大連携を通して高校教育から大学教育へ円滑な接続を図ります。

① ＢＦＬ

「聖徳プロジェクト」と聖徳大学の「Business Field Linkage」「Field Linkage」との高大連携は、生徒の社会への関心を高め、探究する学びの基礎となっており、生徒・保護者から高い満足度を得ています。引き続き完成度を高めるため、研究と実践に取り組みます。

② 聖徳大学教育学部・看護学部・附属幼稚園との連携

令和７年度から児童保育コース・看護コース在籍生徒対象とした高大連携プログラムの実践に取り組みます。

③ 聖徳大学音楽学部との連携

音楽学部と音楽科との連携について研究し、音楽科設置校として特色ある学びを実現します。

（２）ICT 環境の整備

① 生成 AI の活用

生成 AI「Microsoft 365 Copilot」の活用を校務及び授業から導入し、成果と課題を十分に検証していきます。蓄積した知見を生かして、探究活動の中で活用し、生徒の広い視野と深い思考を育み探究の質の向上を目指します。併せて、個人情報保護やセキュリティ、著作権等に十分に留意し、同時に情報の真偽を確かめることの習慣付けも含む、情報活用能力を育む教育活動を一層充実させ、AI 時代に必要な資質・能力の向上を図ります。また、教員研修や校務での適切な活用に向けた取り組みを推進し、教師の AI リテラシー向上や働き方改革に繋げます。

②BLEND の導入

クラウド型の校務支援システム BLEND を導入することにより、出欠・成績データ等生徒に関わる進路関係書類を一元管理し、教職員・生徒・保護者間の情報共有を効率化していきます。

③ 常設の提示環境の整備

特別・普通教室における大型・中型提示環境を設置し、生徒が映像や情報にアクセスしやすいように設計するなど日常的な ICT 活用を促進します。また教員の準備時間の削減や授業時間の確保に繋げ、教員の指導環境の向上を図ります。

④ Microsoft 365 の活用の研究

「Microsoft Innovative Educator Experts（マイクロソフト認定 教育イノベーター）」に認定された教員を中心に、アプリケーションの先進的な活用、生成 AI による学びと業務の効率化、学習の個別最適化等の研究に取り組みます。

《個別最適化した進路実現》

（３）探究活動を通した進路実現

「聖徳プロジェクト」の進路探究プログラムを通して、総合型・学校推薦型選抜入試対策に特化した進路指導を進め、現役進学率 95％以上を堅持します。

（４）高大連携による内部進学率の向上

普通科児童保育コース・看護コース、音楽科の聖徳大学との連携により、個々の進路選択ギャップを軽減するとともに、聖徳大学の魅力を伝え、内部進学率の向上に繋げます。

（５）個別最適化した学びで生徒一人ひとりの進路実現をサポート

「ＭＹカリキュラム」と「聖徳プロジェクト」の推進により、生徒一人ひとりの進路に

対応した個別最適化した学びを実現し、生涯学び続ける姿勢と資質・能力を備えた生徒を育成します。また、探究する学びの集大成としての「マイプロジェクト（卒業論文研究)」を通して、個々の進路実現に繋げます。

【地域・社会貢献】

（１）社会に開かれた学校づくり

茨城県や取手市をはじめとする近隣市町村の教育委員会やクラブチームと連携して学校施設を開放するとともに、吹奏楽部や箏曲部・ダンス部による活動を通した社会、文化活動への地域貢献を推進していきます。地域連携を深めることにより、信頼関係を更に強め、社会に開かれた学校づくりに取り組みます。

① 「ひまわりプロジェクト」等、地域と連携した活動を継続し、取手市の地域活性化に取り組みます。

② クラブチームへの施設開放を通して地域スポーツ振興への協力に取り組みます。

③ 近隣市町村の中学校の部活動地域移行への協力に取り組みます。

④ 吹奏楽部や箏曲部、ダンス部の活動を通して地域活性化に貢献していきます。

【管理運営】

《生徒募集》

（１）教職員・生徒・保護者総力を挙げた生徒募集の展開

「礼法」「会食（食育)」等の伝統的な聖徳教育を大切にすると共に、教育活動全般で取り組んでいる探究する学び・個別最適化した進路指導・互いの個性と感性を認め合い高め合う校風・大学附属校のメリット・女子校の魅力等を、生徒募集イベント等で在校生及び保護者から直接受験生に伝え、安心して学べる学校を PR し、聖徳ファン層を拡大していきます。特に、在校生からのプレゼンテーションについては、本校の魅力度アップにつながるよう、イベントの実施時期及び受験生のニーズを踏まえ効果的に実施し、受験者数・入学者数増に繋げます。

（２）特色ある学科・コース・部活動を軸にした生徒募集の展開

①強みを生かした募集

本校が茨城県、千葉県下唯一の私立音楽科併設校であること、普通科に茨城県下唯一の「吹奏楽コース」、聖徳大学と連携した「児童保育コース」「看護コース」を併設していることを強く打ちだして募集を展開します。

②新たな強みの創出

これまでに近隣市町村のクラブチームと連携してきた実績を生かして、強化指定の部活動を新設し、新たな取手聖徳ブランドを創り上げていきます。

③全国・関東で活躍する部活動の広報

令和６年度は、吹奏楽部が第 30 回日本管楽合奏コンテスト最優秀賞、吹奏楽コンクール・アンサンブルコンテストで東関東大会に出場しました。水泳部が全国大会第３位入賞、箏曲部が全国大会出場、陸上競技部が関東大会出場という成績を残しています。本校部活動の輝かしい活躍を効果的に広報して、入学者増に繋げます。

（３）マーケットの拡大

これまでの募集対象エリアに、通学可能圏内である千葉県葛南地域（船橋市、市川市等）を加えていきます。また音楽科は、東京都城東地域（葛飾区、足立区等）を含めて、募集を展開し、入学者増に繋げます。

（４）効果的な生徒募集イベントの企画と情報発信

生徒の授業アンケート、進路アンケート結果がともに満足度 90%以上であったことを踏まえて、本校の強みを抽出し、常に広報や募集イベントの改善に取り組ます。本校の良さが受験生・保護者に伝わるよう、魅力ある生徒募集イベントを企画し、HP による動画配信、Facebook・Instagram・LINE 等と HP を連動させた広報展開を推進し、入学者増に繋げます。

《基盤整備》

（５）目標達成に向けた協働の実現

授業をはじめとする教育活動について、目標を適切に設定することと、それらに関わる情報を共有することによって、学校目標の達成に向けた教員間の協働を深めます。特に、探究活動に関して、各学年・分掌横断的な取り組みを進め、実践とその評価を繰り返すことで、継続的な改善を図っていきます。

（６）ICT 化による業務の効率化

Microsoft Teams 、Microsoft 365 Copilot を含む Microsoft 365 のサービスを活用し、教育活動の充実を図ります。

① 組織横断的な協働的活動を推進します。

② 業務の効率化を図り、教職員が教育活動にさらに専念できる環境を整備します。

（７）警備の機械化による安全性強化及び業務効率化

警備を機械化し、校舎内点検及び施錠・安全管理へ教職員が積極的に関わり安全性を強化するとともに、安全管理業務の効率化に繋げます。

【環境配慮】

（１）環境教育の実施

教育活動全般で、持続可能な開発目標SDGsの学びを推進し、地域環境の保全に努めます。

（２）ICT の活用によるペーパーレス化の推進

教育活動全般で ICT の活用を進め、ペーパーレスを推進します。

（３）エネルギー等の削減

教育活動で使用するエリアの最適化を図り、エネルギーコストの低減化を図ります。

６．聖徳大学附属小学校

【教育研究】

《教育の質の向上》

（１）新教育課程（新学習指導要領対応 道徳・英語・プログラミング）を上回る学力形成と人格形成の実現

新学習指導要領の完全実施のもと、毎週の「週案簿」提出による学習指導の実施状況の把握の徹底と管理職による指導助言、カリキュラムの検討、評価表作成など、指導と評価の研究を進めます。新教育課程を上回る指導を実践する学校として、発展的な学習内容を計画的に取り入れ、中学受験に対応できる学力形成・人格形成に取り組みます。

（２）「思考力・判断力・表現力」向上に向けた学習指導・学級経営の実践

すべての教育活動において児童・保護者が満足できる学習指導・学級経営を進めていくため、新学習指導要領に示されている「何ができるようになるか」という点を意識し、特に「学習感想」や「振り返り」等、自分の考えをまとめ上げる学習活動に重点を置きます。授業研究では「学びをつなぐチカラを育てる授業づくり」をテーマに掲げ、自分の考えをアウトプットし、確かな話し合いを進める中でよりよい解決方法を見出す力を育てるべく研究を進めます。学校全体で児童の「思考力・判断力・表現力」の向上に努めます。

（３）ICT 活用による効果的・効率的な学びの促進

現在、児童が一人一台タブレット端末を所有し、学習に活用していくための環境整備も整いました。学年の発達段階に合わせ、ICT 機器を効果的・効率的に学習に取り入れ学習成果に繋げていきます。また、単に調べ学習や記録としての活動だけでなく、ロイロノートやキャンバ等のアプリを使用し、シンキングツールやプレゼンテーション資料作成等、幅広く活用していきます。同時に、ICT 活用による創造的な表現力の育成に必要となる指導スキル獲得のための教員研修を重ねます。

《進学の向上》

（４）光英 VERITAS 中学校との連携強化

光英 VERITAS 中高教員の専科授業における指導の導入により、児童自身の中高の魅力の実感を内部進学への意欲の向上に繋げていきます。また、相互交流を更に活性化させ、互いの利点を積極的に情報発信することにより、さらなる関係強化に取り組みます。

（５）未来の創り手となるために必要な資質・能力の育成と、中学受験で求められる学力の向上

将来への夢や希望をもち、中学受験に向けた心と頭を 1 年生から発達段階に応じて育てていくため、基礎学力の定着の自覚化と自信の向上につながる「漢字検定」、「算数検定」に合格できるよう、日々の指導を徹底します。

（６）授業研究を通しての、聖徳大学との連携のさらなる深化と指導力の向上

研修部による年間計画を作成し、教員同士の相互評価を含め、経験年数に応じた授業研

究の形を毎年工夫し、主要教科である国語と算数、そして、専科（音楽・英語）で実施することで、指導力の向上に努めます。

【地域・社会貢献】

（１）同窓会組織を活用した、児童・保護者への学びの場の提供

本校では、1989 年度から現在までに、2,350 名を超える卒業生が巣立っており、成人し、社会の各方面、幅広い業種で活躍する卒業生が数多くいるため、卒業生から児童に向けての授業をキャリア教育の一環として実施し、さらには、保護者向けの学びの場も提供できるよう同窓会組織の活用を進めていきます。

【管理運営】

《児童募集》

（１）専願入学者数を増やすための入試・募集改革

説明会参加者へのアンケート調査・分析による広報戦略の改善、出願前のダイレクトメールや幼児教室訪問をタイムリーに重ねて行い、説明会参加者をこれまで以上に増加させます。また、個別相談も強化し、出願につなげ、専願入学者を増やしていきます。

（２）入学したいと思える魅力的なイメージ戦略の強化

他校ではできない特色ある教育活動を取り上げ、他校との差別化、独自性を明確に打ち出し、募集活動の主軸にするとともに、児童たちの声や学習成果、「何ができるようになったのか」、具体的な向上の姿や活動成果を、動画も取り入れ可視化し、ホームページ内の最新トピックスや教員ブログ、そして、Facebook、Instagram の活用により、これまで以上にスピード感をもって多数発信していき、入学したいと思える魅力的なイメージを作っていきます。また、現在進行形の新鮮な情報発信に努めるだけでなく、その情報を見ていただく手立てとして、積極的な幼児教室訪問を重ね、出願へと繋げていきます。

（３）児童の学習活動の向上の可視化を強化した広報戦略

児童に対し、計画的に各種コンクールへの挑戦を促し、児童の意欲を喚起し、本校の特色あるカリキュラムによって身についた力の成果を可視化していきます。また、育成した表現力を校内外に積極的に発表する機会としていきます。併せて、受賞結果を、ホームページ等から迅速かつ効果的に発信していきます。

（４）「聖徳アフタースクール」の充実

放課後の児童の預かり、及びアフタースクールの充実《選択制プログラムの（月）～（金）実施、及び、短縮授業期間、長期休業期間中の特別時間枠による実施》を図り、共働き等、必要感を持つ層への働きかけをさらに行い、入学者数を増やしていきます。選択制プログラムの内容は各教科学習の発展的内容であり、かつ、児童の知的好奇心を満足させるもの、潜在能力、無限の可能性を伸ばせるものを開発していきます。新鮮な体験から生まれる感動、豊かな感性が意欲的な学びを引き出し、夢中になって取り組むことで、新たな自分自身の可能性に気づき、新たな学習意欲の芽吹きに繋がるよう構築します。

【環境配慮】

（１）緑豊かな附属小学校の校地を活かした、環境への主体的な意識を高める指導の強化

本校には、他校との大きな差別化となる、本校ならではの「小学校の教科書に掲載されたすべての樹木が植えてある緑豊かな校地・校庭」があり、日頃自然に親しむことが難しい児童たちにとって大変恵まれた環境であることから、これからもこの環境に触れ、学習活動に活かす機会を充実させていきます。また、低学年は生活科、高学年は理科の授業を通して学び、同時に環境への視点も育てていきます。

（２）徹底した業務の効率化の実行

教職員間の連絡や情報管理・情報共有等、業務方法を紙配付からデジタル化へ移行し、加えて保護者へ配付するお便り等も紙配付からデジタル配信へ移行し、決められた時間内に効率よく職務を遂行していくことで、紙の使用量や電気使用量を削減することによりエネルギーの節約につながる環境配慮にも努めます。

７．聖徳大学附属幼稚園・附属第二幼稚園・附属成田幼稚園・附属浦安幼稚園

【教育研究】

《教育の質の向上》

（１）聖徳幼児教育の成果の発信による保護者満足度の向上

本園の保育や行事を通じて成長した子どもの姿を、幼稚園での教育の成果そのものとして学内外に常に発信してまいります。

園児ひとり一人に対してそれぞれに最適な成長のための教育を行い、その結果だけでなく、その過程を保育参観等の機会だけに留まらず日々の保育からも常に各保護者に伝えることのできる力を全教職員が身に付けます。

（２）教員の教育力の向上

四園の全教員が他園の保育に参加し他園の教育を実体験する四園相互見学研修を実施し、その振り返り活動、意見交換研修を通じて教員同士の学びを深め、全教員の教育力を更に高めていきます。

（３）発達段階に応じた基本的な生活習慣の習得のサポート強化

「早寝早起き朝ごはん」を基本的な生活習慣の軸と位置付け、自立した生活のできる子どもの育成のため、これまでのデータの集積から得られた数値を捉え、より効果的な指導について保護者との共通理解を深め、家庭教育との両輪にて正しい箸使い等につき達成度 100%を目標に全教職員で集中的に指導にあたります。

（４）幼児の可能性を引き出す各園の重点取組のカリキュラム展開

本園の特徴的な取り組みであり学外にても大きく取り上げられる「はだし教育」について、その効果を再検証するため、調査項目の相関関係を分析するなどの実践的な研究に取り組みます。また、本園の教育方針である「遊びを通した学び」の過程や効果は保護者からは見えづらいという認識から、聖徳大学附属幼稚園では七園合同研究保育で取り組みを始めた「ポートフォリオやドキュメンテーション」による「見える化」を念頭においた保育を本園の特徴的な教育として位置づけた上でカリキュラムに展開し、教育効果を高めることに取り組みます。

聖徳大学附属第二幼稚園、成田幼稚園では園内の各遊びコーナーの環境を充実させ、幼児がより主体的かつ意欲的に活動を発展できる環境を整え、幼児の豊かな活動を引き出すためにカリキュラムに展開し、教育効果を高めることに取り組みます。

また、聖徳大学附属浦安幼稚園では本園の特徴的な教育として継続的に実施している体育的活動について更に発展させ、表現遊びやリズム遊びとの結び付けのなかで教育効果をより高めることに取り組みます。

《進学の向上》

（５）附属小学校との連携強化

相互交流を更に活性化させ、互いの教育活動を積極的に情報発信し園児と児童の交流を促進するなどから相互発展的な関係強化に取り組みます。

【地域・社会貢献】

（１）地域への積極的参加と幼児教育機関としての存在感の向上

地域の自治体や大型施設のイベントに積極的に参加し、園児の園外教育活動に位置付けながら本園の教育を地域に発信し地域での存在感向上に取り組みます。

（２）SEITOKU オープンキンダーワールド（園庭開放・親学）の強化

未就園児イベントとして地域の保護者ニーズを的確に把握するとともに、令和６年度実施内容についてのアンケート結果を検証することにより更なる内容の充実を図り、情報発信を拡大し地域における子育て支援施設としての更なる拠点化に取り組みます。

（３）預かり保育の強化

女性の就労率が更に上昇していくことを認識するとともに、幼児教育無償化の施策に伴って増加している共働き世帯を含めた、すべての子どもに良質な幼児教育を提供するためにカリキュラムや運営方法の点検を実施するとともに、申込み方法等を含めた利便性の向上にも取り組みます。

【管理運営】

《園児募集》

（１）新入園児の増加

質の高い幼児教育を行い、その成果を適切に発信し新入園児の増加に繋げます。そのために教育内容と教育効果の可視化を図るとともに教職員の就業環境の整備を行い、安定的な園児確保に取り組みます。

（２）保護者の利便性の向上

経営基盤の安定のために重要な保護者の満足度向上に向けて、教育内容や教育環境の充実をはかるとともに、「れんらくアプリ」の活用拡大による園への届け出のペーパーレス化などを更に進め、保護者の利便性を向上するためのサービス向上に努めます。合わせて、ポートフォリオやドキュメンテーションを活用した教育の可視化の水平展開に取り組みます。

（３）給食の強化

「給食があるから」が本園を選んだ理由で第１位である現状を踏まえ、令和６年度より四園全園にて月曜日から金曜日までの週５日完全給食を実施しましたが、令和７年度は「食育」としての内容を更に深めます。

ホームページでの「本日の給食」の写真公開等を通して入園後の満足度の向上に努めるとともに、自園調理と専任栄養士による他園との差別化、担任が個々の状況に合わせて配膳すること及び、年長児は役割当番として参加し、協調性を育成することのメリットを積極的に発信することにより、新入園児の募集に効果的につなげていきます。

聖徳大学附属浦安幼稚園では専任栄養士による献立の立案と学園内調理を通じて他園と

の差別化を積極的に発信することにより新入園児の募集に効果的につなげていきます。栄養指導、食事マナー、箸の使い方指導など、給食を通した食育にもこれまで以上に積極的に取り組むとともに、昨今増加しているアレルギー児への対応にも大学三園とも連携し強化を図ります。

（４）送迎バスによる園児募集強化

少子化が進行していく中での園児募集活動において通園バスは益々重要なツールとなっていることを認識し、安全運行の徹底や利便性はもちろんのこと、将来的に園児の獲得が有望な地域を的確に把握し、中長期的視野に立ったバスコースの変更、改善、増設に取り組みます。四園ともバスの小型化が完了し従来よりも通行可能なルートが拡大したことを活かし保護者の利便性を向上させ選ばれる幼稚園を目指します。

（５）２歳児保育（未就園児教室）の発展的実施

２歳児保育については保護者の負担が少ない未就園児教室（保護者同伴幼児ルーム）の需要が増えており、そのニーズに応え令和６年度に開設した「ひよこ組」について、こども家庭庁の実施する「こども誰でも通園制度」と有機的に結びつけることにより更に発展させ実施します。

《基盤整備》

（６）残業時間の削減

安定的に質の高い教育を行うため教職員の退職抑制を図り、適正なワークライフバランスに向け「れんらくアプリ」等の IT の活用を促進し引き続き業務の効率化に取り組むとともに、業務内容の整理やアウトソーシングなどにより教職員の家庭環境の変化にも十分に対応できる労働環境の整備に取り組みます。また、実効的な残業時間削減と意識の向上を目的としたノー残業デーを実行します。

（７）安定した経営のための運営形態の検討

［附属成田幼稚園］

共働き世帯の増加に伴う保育所ニーズの上昇により、市内の幼稚園はいずれも園児募集に苦戦を強いられています。認定こども園に移行する幼稚園も見られる中、将来的に経営を安定させることができる運営形態を検討し、また、駅前保育ステーションの開設など新しい施策を検討します。

（８）物価高騰による支出増加への対応

物価高騰、とくに幼稚園バスの燃料費や給食における食材料費の上昇に対応するため、バス会費や保育料（給食費含む）の金額改定について検討し、適切に徴収します。

【環境配慮】

（１）環境整備の徹底

環境負荷の軽減のみならず、園内の安全管理上の観点からも重要性を訴求し、教職員の環境保全への意識の向上に取り組みます。

（２）ペーパーレス化の推進

保護者への連絡について、IT 化、ペーパーレス化を更に推進します。

（３）園児への環境教育の実施

環境教育の入り口として園児による「環境見回り隊」に引き続き取り組み、節電、節水等省エネルギー化について園児とともに取り組みます。

（４）使用エネルギーの削減

SDGs の学びを推進し、園児の健康と省エネルギーの両立に取り組みます。

８．聖徳大学三田幼稚園

【教育研究】

《教育の質の向上》

（１）現代の教育課題を踏まえた教育内容、方法の改善

新園舎の教育環境（園舎、園庭、遊戯室、こども図書館等）を有効に活用し、現代の教育課題として「思考力、表現力の育成」「体力、運動能力の向上」「生活体験、自然体験の拡充」を踏まえた教育を推進します。そのために学校評価を踏まえた、教育内容、方法、行事を検討し、教育課程、長期の指導計画、週の指導計画を見直します。

（２）「すくわく探究活動」の推進

令和３年度に行った「思考力」の研究を踏まえ、「物の性質、仕組みの理解」をテーマとして、令和７年度は「砂」「積み木」を中心に様々なことに気づき、試したり、工夫したりする知的好奇心、思考力、表現力を育む指導を実践します。そのための園具、遊具の教育的意義を検討し、事例検討などによる効果の検証を行い、その結果を保護者に周知し、大学附属の幼稚園としてのイメージアップにつなげます。

（３）預かり保育の教育内容の検討

預かり保育の内容の検討を行い、実施期間、実施時間の見直し、教育課程内の活動との関連等の改善を図ります。長期休業中の預かり保育の活動内容、生活環境、指導計画の改善等を行い、長時間在園する園児の疲労に配慮するとともに、生活体験の補完を行う保育について検討します。

（４）研究・研修で教員のスキルアップ

現代社会の状況を踏まえ、教育課題についての共通理解を深めます。そのうえで一人一人の幼児の成長、発達に応じた指導を行うための指導について定期的に話し合い、教員同士の学びを深めていきます。また、特別な支援が必要な幼児に対応するため大学と連携を図り、専門的に助言を得ながら保育の在り方について研究していきます。

【地域・社会貢献】

（１）子育てパートナーの役割を担う幼稚園

保育参観、個人面談を学期ごとに実施し、さらに各行事で保護者が子どもの成長を実感できるようにしていくとともに、個別の子育ての不安や相談に応じ、解決の支援に努めていきます。保護者との信頼関係を強め、子ども達の健やかな育成につなげていきます。また、未就園児を対象にした園庭開放の回数を増やし、遊び場の提供、様々な遊びの提供、子育てに関する悩みや相談に応じるなど、地域に貢献していきます。

（２）地域と交流している幼稚園

隣接するビルのイベントや町内会の行事に参加したり、区内の小学校、中学校と交流し、地域の一員としてのかかわりを強めていくように努めます。

【管理運営】

《園児募集》

（１）教育の成果をアピール

幼稚園での生活の様子や遊んでいる姿をホームページに計画的に掲載し、保育内容の意図や子どもの成長、教育成果がわかる情報の提供を心掛け、取り組みます。

（２）預かり保育の充実をアピール

預かり保育開設の期間として長期休業中の開設、時間、費用の見直しを行います。保育所から３歳児で入園してくる幼児の保護者の勤務状態、預かり保育が必要な人数などを把握し、保育を行う環境や保育内容を検討し、ホームページでアピールして園児募集に繋げていきます。

（３）園見学、説明会の拡充

広い園庭、絵本の部屋、遊戯室、３階ホール、床暖房など優れた教育環境を実際に園見学して入園に繋がるよう、見学者への対応を丁寧に行います。説明会では保護者に分かりやすい資料を作成し、具体的な姿を盛り込んで興味を高めて募集に繋げていきます。

（４）未就園児教室への参加者の増加

２歳児保育の活動をホームページに掲載し、本園の魅力を伝えていくとともに、知名度や好感度を向上させ、入園に結びつけていきます。入園前の親子が園内で遊んだり、教員や在園児と関わったりすることで、幼児が幼稚園は楽しいところだと思えるよう努めます。また、就園前の対象年齢の限定をせず、乳児から幼児まで参加できる環境を用意し、実施します。

（５）未満児保育所への働きかけ

２歳児保育からの入園が増加していることから、本園の環境、保育内容を周知するため、港区、品川区を中心に保育所への訪問を実施し、関係を深めて園児募集に繋げていきます。

《基盤整備》

（６）安全・安心な教育環境の整備

園舎内外、遊具を定期的に点検し、安全性の確保に努める。これまでも一部に破損や不具合が出ていることもあるので、詳細な点検が必要と考えます。また、衛生環境を整え、感染症対策を講じて保育内容の見直しや幼稚園行事を行なえるための工夫をし、発達に必要な経験を確保し子どもの健やかな育ちを守り支えていきます。

また、年間 12 回の防災訓練を実施し、災害時に備えて訓練します。

（７）業務の効率化とモチベーションの向上

教職員の共通理解を図り、業務内容を見直し、業務の効率化とモチベーションの向上を図ります。

【環境配慮】

（１）環境にやさしい活動をする幼稚園

ごみの分別やエコキャップ運動、テープの巻き芯の集めなど環境にやさしい活動に取り組み、園児の環境に対する意識の向上を図ります。

９．聖徳大学八王子幼稚園

【教育研究】

《教育の質の向上》

（１）教育目標である「いつもにこにこ元気な子ども」が育つ幼稚園

生きていく上で大事な「見る」「聞く」「考える」「話す」「行動する」力を育み、自主性を伸ばす保育を展開していきます。

（２）教員のスキルアップ

日頃の「あそび」を通して園児が様々な遊びから探求する目が芽生えるように、友達とかかわる中で、子ども同士がお互いの思いや考えなどを共有し、作り上げていかれるような子ども達を育成していきます。そして、園内研修や保育の振り返り・見通しを大切にし、教員のスキルアップに努めていきます。

（３）「心」と「体」のバランスのとれた園児の育成

個別指導を要する子どもを含め一人ひとりの発達に必要な体験が得られる環境をつくり、園児の伸びる力を引き出していきます。遊びを通して自分達で考え試したり工夫したり、友達同士で意見を出し合いながら探求心を育み、様々な遊びを室内・戸外でも展開し楽しめるような保育を取り入れていきます。

【地域・社会貢献】

（１）子育てパートナーの役割を担う幼稚園

聖徳大学・聖徳大学幼児教育専門学校の教員や聖徳大学保健センターからの支援を受け、保護者の子育てに関する悩みなど積極的に相談を受けることで、子育てパートナーの役割を担う幼稚園を目指します。

（２）地域と交流している幼稚園

近隣の高齢者施設との交流によって高齢者は園児の活力を授かり、園児には高齢者をいたわる気持ちや自分が役に立つ喜びを感じられるよう努めます。また、近隣の小学校へ訪問し、そこでの体験を通して、小学校教育への円滑な接続を図っていきます。

開かれた幼稚園として近隣の公園に遊びに行くことで、園外の未就園児とのかかわり、交流をもち、幼稚園内で行っている園庭開放に誘い幼稚園内で安心して遊べ、幼稚園の子どもの様子も見て頂けることで、幼稚園のアピールにもつなげていきます。

【管理運営】

《園児募集》

（１）園児の成長が日々感じられる幼稚園

保護者との綿密な連携を取り、子どもの成長が日々感じられるような幼稚園を目指します。また、幼稚園内での遊んでいる様子や行事の様子等はHPやインスタグラムに掲載し、幼稚園の子どもの様子を見て頂けるよう心掛けていきます。

（２）保育を見学し、体験できる幼稚園・出前保育での保育の提供

開放的で親しみやすい開かれた幼稚園であることを活かし、園庭開放や随時見学等を実

施し、保護者のニーズに寄り添った幼稚園を心掛けます。そして園児と直接触れ合い、教員ともかかわり、好感度が得られ入園につなげられるよう、出前保育での保育の提供によっても、教員の姿から安心して通わせられる幼稚園であることを感じて頂けるように目指します。

（３）七園で統一された魅力ある給食

自園調理による給食提供(月曜日から金曜日)で他園との差別化を計り、栄養指導・食事マナー・箸の使い方指導・給食を通して食育にも関心がもてるよう助言し、栄養価の高い、充実した食生活が送れるようにしてまいります。

（４）満三歳児クラスの充実

満三歳児クラスの生活や遊びを通して四年保育の充実を図り、園児の著しい成長を保護者には連絡アプリ内で配信し、外部の方にはHPやインスタグラム内でお知らせし、四年保育の良さや幼稚園教育の魅力を伝えることで、入園者の増加につなげていきます。

（５）未就園児教室への参加者の増加

未就園児教室の活動の遊び場、保護者同士の語らいの場として、遊びやすい環境整備に努め、参加者の増加を図っていきます。又就園前（１歳児）の親子が園内で遊び、和やかで温かい幼稚園の印象をもって頂けるよう一人ひとりへの対応に気をつけ、入園に結びつけていきます。

《基盤整備》

（６）様々な感染症への対応

衛生環境を整え、子どもの健やかな育ちを守り支えていきます。

（７）業務の効率化とモチベーションの向上

教職員の共通理解を図り、業務の効率化と経費の節減を図ります。そして働きやすい職場環境・人間関係の構築を図ります。

【環境配慮】

（１）環境にやさしい活動

ごみの分別やエコキャップ運動、エコ活動（廃材利用・紙の削減)、節水や節電の意識を高め、環境にやさしい活動を、園児とともに教員が意識向上に努めていきます。

（２）ペーパーレス化の推進

保護者への連絡を「れんらくアプリ」を通した方法へと切り替えて二年目、ペーパーレス化を継続してまいります。

１０．聖徳大学多摩幼稚園

【教育研究】

《教育の質の向上》

（１）教育目標である「いつもにこにこ元気な子ども」が育つ幼稚園

発達に必要な体験と安定した情緒の下で自己を十分に発揮できるよう、幼児の主体的な活動を促して幼児期にふさわしい生活を展開していきます。

（２）「心」と「体」のバランスのとれた園児の育成

異年令との交流活動、個別指導を要する子どもを含め一人ひとりの発達に必要な体験が得られる環境をつくり、幼児の伸びる力を引き出していきます。

（３）教育課程の実施状況を評価し、その改善を図る（教員のスキルアップ）

園児の主体的な活動が確保されるよう一人ひとりの行動の理解と予想に基づき、計画的に環境を構成できる教員のスキルアップを目指します。

【地域・社会貢献】

（１）子育てパートナーの役割を担う幼稚園

保護者の子育てに関する悩み、保護者のニーズの把握など、積極的に受け入れ、聖徳大学グループの様々な部門からの支援をうけ、子育てパートナーの役割を担う幼稚園を目指します。

（２）就園前の乳幼児が楽しめる幼稚園

就園前の親子が園内で遊んだり、教員や園児とかかわったり、保護者同士の交流の機会を提供できる幼稚園を目指します。

（３）地域と交流している幼稚園

園児と高齢者との交流によって、高齢者は園児の活力を授かり、園児には高齢者をいたわる気持ちや自分が役に立つ喜びを感じられるよう努めます。

【管理運営】

《園児募集》

（１）子どもの成長が日々感じられる幼稚園

保護者が子どもの成長を実感できる機会をつくり、綿密な連携をし、保護者との信頼関係を構築し、保護者の方と共に子どもの成長を喜び合う幼稚園をめざします。また、ホームページにも日々の子ども達の成長を配信していきます。

（２）未就園児教室への参加者の増加

早い時期から本園との関わりが持てるようにするために、未就園児教室である「にこにこルーム」を開設し、親子一緒に過ごせる活動を展開し、少しずつ幼稚園の生活に慣れ親しみ、入園にむすびつけられるように努めます。

（３）預かり保育の充実

多様化する社会生活の変化や保護者の要望等に対応して、幼児の心身の負担を配慮しながら預かり時間を延長し、就労している方へ幼稚園に預けられることを働きかけ、入園

者数を増やせるよう努めます。

（４）自園調理による給食提供の差別化

自園調理の給食提供は他園より強みであるため、月曜日から金曜日までの毎日給食の提供と栄養バランスのとれた附属七園統一の献立と、食物アレルギーに対応できることの宣伝を強化していきます

また、広いスペースで食事できる安心、安全な環境であることも強みとしていきます。

（５）来園しやすい交通手段の利便性を図る

臨時駐車場の設定や、多摩センター駅との送迎用として園バスを活用させることで、保護者に選ばれる幼稚園となるよう利便性の向上に努めます

《基盤整備》

（６）安全安心な幼稚園つくり

衛生環境は常に整え、様々な危機を管理し子どもの健やかな育ちを守り支えていきます。

（７）業務の効率化と同僚性の向上

教職員の共通理解を図り、業務内容を見直し、業務の効率化と経費の節減を図ります。

また、教諭の学び合う同僚性も高めていきます。

【環境配慮】

（１）環境にやさしい活動をする幼稚園

ごみの分別やエコキャップ運動、テープの巻き芯の集めなど環境にやさしい活動に取り組み、幼児の環境に対する意識の向上を図ります。

また、地域の方からもエコキャップを集め、エコキャップアートを製作、展示し、地域の方々とともに環境にやさしい活動をする幼稚園を目指します。

（２）ペーパーレス化の推進

保護者への連絡を印刷物から「れんらくアプリ」を通した方法へと適宜切り替え、ペーパーレス化を推進します。